

研究 成 果 報 告 書

令和6年7月15日

1. 所属・職・氏名 等

学校教育学科・教授・廣田健

2. 研究課題（テーマ）名

省察的教師の育成を目指した教員養成カリキュラムの開発-実践的教員養成からみた教員養成の課題の本学教員養成カリキュラムへの反映

3. 研究期間

2022年4月1日～2024年3月31日

4. 利用した研究費の種類及び金額

*重点領域研究費 1,195,082円

5. 研究の概要

教職支援センターの事業（SAT活動、学生相談・卒業生支援、ICT支援）を通じて、その成果を都留文科大学の教員養成カリキュラムに還元する共に、教職支援センター所属の教員と学部教員との連携を深める。

6. 研究成果等

■2022年度の研究成果

(1) 共通課題

- ① 省察的教師の資質と養成の方向性の検討(省察的教師育成における実践と振り返りの意義)
 - ・現場の教育実践のなかで具体的な「省察的な実践のありよう」について、オンライン学習会（「明日へのライブラリー」の収録）のなかで検討を重ねてきた。
- ② 教育における地域の役割と教育実践の理論的整理（地域人材の養成と教員養成）
 - ・オンライン学習会「明日へのライブラリー②⑨～③① 福井雅英の教師研究…地域に生きる」
- ③ 教育現場に必要とされる ICT の内容と課題の整理（都留市での実態と課題を踏まえて）
 - ・村上憲司「都留市の情報教育」（教職支援センター年報第8集）の検討と課題討議

(2) 実践的教員養成の観点からのアプローチ

(主に教育フィールド研究及び卒業生支援にかかわるメンバー) が中心に研究を進める。)

- ① 教育フィールド研究・教職実践演習における学生・院生の成長と振り返りの役割（「感想」から「省察」への働きかけ）
 - ・教職支援センター1と2合同で授業改善を進める
- ② 教職支援交流会及びテーマ別支援交流会の相談事例等からみる初期キャリアにある教員の

突き当たる戸惑い・失敗から見る教員養成の課題の整理

- ・泉宜宏「いくつかの重なり合う風景の中で～教職支援センターにおけるナラティブ的探求」(教職支援センター年報第8集)の検討と課題整理

(3) 都留らしいあたらしい観点からのアプローチ

(地域と教育及び ICT 関係の取り組みに関わっているメンバーを中心に研究を進める。)

① 都留市における ICT の利用と GIGA スクール対応の経緯・現状・課題の整理

② 都留の教育現場に基盤を置いた教育の必要性からの ICT 利用の研究

— 次年度から設定される「教育における ICT 利用」に反映させる

- ・教職支援センター年報第8集の特集「ギガスクール構想を現場でどう受けとめて実践しているか」の検討と課題整理

- ・都留市内の小中学校における ICT を活用した出前授業 (吉岡卓)

① つる研 (教職支援センターと地域交流研究センターの共同研究会) における教員養成の課題の整理 (フィールドミュージアム構想を中心に)

- ・泉宜宏「生徒・進路指導論ノート (1) …5章ライフヒストリーの聴きとり～大田堯の仕事に学ぶ」(教職支援センター年報第7集)の検討と課題整理

■2023年度の研究成果

(1) 共通課題

下記の点については、昨年度に引き続き、この研究会に関わる教員の共通認識の形成基盤として全体で研究会をもつ。

①省察的教師の資質と養成の方向性の検討:省察的教師の育成における実践と振り返りの意義

- ・教職支援センターとしてパネル・ディスカッション「いま現場で働く若い教職員を励ますためにできること」のなかで、省察的教師育成におけるリフレクションとカンファレンスの意義について検討することができた。

②教育における地域の役割と教育実践の理論的整理:地域人材の養成と教員養成

- ・8月の教育実践研究会、12月の公開講座、2月のパネル・ディスカッション「いま現場で働く若い教職員を励ますためにできること」について、地域の教職員への参加を呼びかけ、卒業生を中心に参加者を増やしながらか、地域で子育てに関わる人々との関係を築いてきた。

③教育現場に必要とされる ICT の内容と課題の整理:これまでの都留市での実態と課題を踏まえて。

- ・村上憲司「都留市の情報教育」(教職支援センター年報第8集)の検討と課題討議を踏まえて、センター3の事業について教職支援センター会議の中でも検討を重ねてきた。

(2) 実践的教員養成の観点からのアプローチ

① 省察的教師の養成に向けて

市内の各小中学校から募集した研究員と教職支援センター1の教員で「よりよい SAT 活動研究会」を発足し、10回の研究会を通して、A. 学生への指導と助言/B. SAT 活動の課題改善の検討/C. 研究の報告としての通信活動をすすめてきた。少子化と教師の若年化等の諸課題を踏まえて SAT 活動についての提言をまとめた

② 省察的教師の育成から、自発的な教育研究活動の充実へ

これまでの教職支援センター2における教職支援交流会の積み重ねを基盤とし、こくばんの会や教職実践研究会、オンラインによる学習会「明日へのライブラリー」を通して、子ども理解と省察的教師としての自立に向けた相互交流を進め、都留文科大学の卒業生を中心とした学び合いのネットワークを広げ、深めてきた。

(3) 都留らしいあたらしい観点からのアプローチ

① 都留市における ICT の利用と GIGA スクール対応の経緯・現状・課題の整理するために都留市情報教育研究会と教職支援センター3との連携を進める。

・教職支援センター会議のなかでセンター3の事業の発展的な方向性について論議を重ねることができた。

② 「教育における ICT 利用」実践について、卒業生や都留市内の教職員と連携・交流して、その成果を「教育における ICT 利用」などの授業科目に反映させ、センター3としていくつかの学校と連携して、独自の ICT 授業をすすめてきた。

つる研(教職支援センターと地域交流研究センターの共同研究会)における研究成果に学びながら、フィールドミュージアム構想の実現に向けて寄与できるように、オンライン学習会「明日へのライブラリー (33) (34) 大田堯先生に学ぶ」を実施してきた。

③ 「大田堯先生から学び・未来を考える」増山均(早稲田大学名誉教授)

④ 「大田堯先生と本郷地域教育計画」福井雅英(元滋賀県立大学教授)

7. 研究の実績(論文・発表 等)

○『教職支援センター年報』第9集 特集 教職カリキュラム改善のための提言(1)

○『教職支援センター年報』第10集 特集 教職カリキュラム改善のための提言(2)

○シンポジウム「いま現場で働く若い教員を励ますためにできること」2024年2月11日・都留文科大学

○つるラボフォーラム『自ら学び、自ら考える力』を共に育む学びのみらいを創造するには」2024年3月11日・都留文科大学

以上